

小さな親切

宮崎県 広瀬中学校 2年 牧野 伊吹

私が母に、「お父さんてやさしいか？」と聞いたら、母は、「お父さんは意外とやさしいところがあるんだよ」と言って、父がした親切な話を教えてくれました。

その日は、とても暑い夏の日だったそうです。たまたま父が外に出ると、家の近くに一台の軽トラックが停まっていた、その中に一人のおじさんが乗っていました。そのおじさんはずっとそこに車を停めていたので、父が、

「どうしたんですか？ ずっとそこにいますよね？」

と聞くと、

「車が動かなくなったから車屋さんに電話したけれど、車屋さんがどこも休みだから、修理ができなくて家に帰れない。」

と言ったそうです。そのおじさんは携帯電話を持っておらず、お金もないから何もできなくて、その日は車で寝るということでした。しかし、その日はすごく暑くて、とても車の中で寝られる暑さではなかったそうです。父が、

「家族の方に電話をしてあげましょうか？」

と聞くと、奥さんと息子さんがいるけれど、二人とも車を運転することができないから、電話をしても誰も来られない、ということでした。そこで父は、家の近くのガソリンスタンドで千円分のガソリンを買ってきて、そのおじさんの軽トラックにガソリンを入れてあげ、「千円は返さなくていいですから」と言いました。おじさんは、

「ありがとう、助かった。」

と言って帰っていき、その三日後、家にお礼を言いに来たそうです。

私は、その話を母に聞いたとき、私の父も意外とやさしいことをするんだなと思いました。

私は、人にたくさん助けってもらったことがあります。人を助けたことはあまりありません。人に親切なことをすると、とても気持ちがよくなると思います。だから、私も人に親切なことをして、たくさんの人に「ありがとう」を言われるようになりたいです。

私は、これから困っている人を見かけたら、すぐに助けたいです。たとえどんなに小さな親切でも、された人はとてもうれしいと思います。私は、父のように誰にでも思いやりをもって接し、人から「ありがとう」と言われるような大人になりたいです。